

植物観察

FES インテンシブセミナー

2010.6/23～7/1

岩崎恵美

露草(ツユクサ)

1, 客観的知覚

私の心を引き付けてならない露草(ツユクサ)。

6月の夏至を迎えた頃からその植物は開花し始めました。

花期は長く、梅雨や猛暑も乗り越えて9月頃まで咲きます。

そんな露草が風にそよぐ姿は、真夏の陽射しに一時の清涼感を与えてくれます。

《葉》(P1.2.3)

新芽は二枚ともう一枚小さな葉がつきます。

葉柄は無く真ん中に1本の筋があり先端は尖っています。

茎を抱く感じで成長し互生につき螺旋をえがいて成長しています。

そして一枚一枚が離れていき3枚の葉に分かれてから再び3枚の抱かれた葉から包葉出来て花芽がつくというリズムを持っています。包葉にはうっすらと筋が入ります。葉の色は薄緑色で付け根に赤紫色の筋が入っています。

根元の葉は小さく徐々に成長し先端にいくほど大きな葉になります。

根元から空に向かい逆三角形にカタチつくっています。

《花》(P1.4.5.6)

大きさは1.5~2cm弱と小さい。

花芽は葉のカタチや構造とは全く異なる、半月形に二つ折りになった包葉という中に出來ます。

無理やり包葉を指でこじ開けてみると、包葉はハート形をしています。

中には花芽が数個出来て、包葉の付け根に退化した主軸が1本突き出ています。

開花時は包葉の扉を開いて咲きます。また萎むときも包葉の中に仕舞い込まれるように閉じます。

花は2枚の青い花びらがネズミの耳のように立ち上がり、もう1枚は小さく白(透明)で下向き尖ってあり3枚です。

花びらはとても薄く鮮やかな青でも透けています。

花冠のカタチは横向きの杯形の変形。がくは3枚で透明です。

花の全体のカタチは逆三角形。

花は四方を向きます。

雄しべは統一ではなく、中心から3→1→2本と徐々に長くなり
花粉に至っては最後に長く突き出た2本だけが持っています。
花粉を持たない雄しべは花の中心付近にあり黄色く目だつ存在です。

雌しべは1本、2本の長い雄しべに混じって存在します。

《茎》(P1.7.8)

茎は毛は無く、薄緑色の中に赤紫色の筋が入ります。
根元に近いほど濃く茶色く見えます。
茎の中は詰まっています、外皮柔らかくは折るとパキッと折れず繊維が長く残ります。
フシが数カ所できて、新たに立ち上がる茎ができその部分に根が生えてきます。
横へ横へと広がっていく方向と縦に立ち上がる方向があります。

《根》(P9)

太い根が数本、地面から立ち上がりますが
掘りあげてみると地中では細かい繊毛があります。
立ち上がった箇所からの根は薄緑色です。水栽培で新たに出てきた根は白。

《種》(P10)

発芽から約一ヶ月で種をつけます。
枯れた茶色になった包葉の中に3~4個入っています。
種の色は茶色がかったグレーで、表面は穴があいているように見え
ボコボコしていて砲弾を縦に半分に割ったカタチで、底をみると半月。
大きさは2~3mmの軽い種です。

《空間》(P1.11.12)

真上から見ると中心から放射線状に広がっています。平均の高さは20cmほど。
花がいくつかついてくると、露草は徐々に地に這うように倒れていきますが、
側に高い植物があるとツル性の植物のように巻き付くのではなく寄り添うようにして露草
も50cmほどまで高く成長しています。

他に共存する植物がいないと横に這い、生存環境が厳しいと上に
立ち上がろうとするのかもしれませんが、多種を利用して
立ち上がるのかもしれませんが。

枯れ方を見ると中心から枯れ始めます。

《環境との関係》(P8.13)

生息環境は湿度の高い場所が好きです。

日当たりの良い場所や明るい北向きの日陰でも生息します。
近くには雑草と呼ばれる草が多く道端などでよく見かけます。

《他の自然界との関係》(P1.14)

アリや小さな蛾や花アブが寄ってきます。
土の無いコンクリートの割れ目でも発芽します。
受粉では他の自然界に協力関係をあまり感じられないように思えますが、生存していく上では共存は許しているようです。

《4元素との関係》(P8.15)

午後の強い陽射しでは花はしぼみ、乾燥してくると葉を丸めたり枯れてきます。
花自体は瑞々しく、色も透き通るほどの透明感があり
花瓶の水だけでも根が出てきたことを考慮すると4元素の『水』の要素を強く感じます。反対に雨でも咲く様子を見ると『火』の要素が欠けていると思います。

《時間や季節の周期》

四季を通じては毎年6月から9月かけて咲き、翌年は新たに発芽する一年草です。夏の咲き始めには一日のうちで朝 6 時前に開花し始め、午前中のうちに萎んでしまいます。9月に入り陽射しが弱くなっても昼過ぎには咲き終わります。
天候には左右されず強い陽射し、曇り、雨でも同じように咲きます。

《感覚的観察》

露草というくらい朝露が葉にたまった姿は美しいです。
葉はさわるとはガサガサしています。このガサガサした葉の表面で露をたくわえられるのかもしれない。
昆虫達を誘うような香りも強くなく、味としても特徴はありません。
食感は花も葉もシャキシャキとして、瑞々しさを感じます。
固い部分が根元部分だけで、全体的には柔らかな印象です。

一本一本のカタチは個性的でオリジナリティーに富んでおりしっかりしたカタチで構成されていて、メカニクなイメージもあります。

写真を撮ろうとしても少しの風にも揺れてしまい、手で押さえて撮りました。

『空気』を感じる反面、少しの刺激にも弱い繊細さがあります。
指で花びらをすり潰すと簡単に色が出て来ます。(P16)

《色》P2.4.5.6.7

鮮やかな青色がいつまでも心に残ります。
青→黄色→黄緑→赤紫→茶色
上のチャクラの色が中心のようです。

2. 創造的知覚

《花からのイマジネーション》

必要に応じて開閉する包葉のハートから機械的に立ち上がった花の姿に
この植物のメカニク的な進化を感じ、上(天)でも下(地)でもない
過去でも未来でもない現実の社会に向けて表現しているようです。

自分の心を必要な時にだけ開くよう繊細な花は教えてくれています。

朝の陽射しは一日のうちで柔らかく、朝陽を浴びると人は自律神経が整うと言われてい
ます。体内時計を調整することの大切さを教えてくれているのでしょう。

耳のような印象の花びらやダミーの雄しべは、沢山の情報から真実のみをよく聴き取る
ように集中せよという表現にもみえます。

情報をキャッチするスピードや冷静な判断は鋭く吸収し、他者のために
創造し朝陽のように穏やかに思いやりを持って伝えていくことの必要性も教えてくれま
す。

周りからの刺激に揺れてしまうとき真実は全て自分の中にあり、経験から得た
洞察を思い出して自分を取り戻すよう思い出させてくれます。
そしてまた自分らしく生きること教えてくれています。

『陰』性の強さ、遠心力を生かしている。
地面に這う姿は、力の勢いを求心力へ移行する『陽』性の働きを
全身で補っています。

情報過多になり強い刺激に疲れてしまう神経に、ペースを落とし

たっぷりの休養による再生を教えてください。そしてしっかりとグランディングすれば再び立ち上がる勇気を与えてくれます。

本来は全て自分の中で完結できるとしても、自分を中心に外へ表現することは真実を伝えていくことであり共存していく社会の必要性も説いているようです。

弾のようにスピード感を持ち爆発威力を備えている言葉や文明を繰り返してきた魂は、自分の中でその経験を噛み砕くことで本来の自然界と共存する社会を取り戻しゆっくりと繋がり進化することの素晴らしさを教えてください。

禅語として『是日々好日(ひびこれこうにち)』という教えがあります。晴れても雨でもどんな日でも日々同じような気持ちで「今日も一日良い日であった」と過ごせるよう説いています。

一年で一番変化の厳しい夏の環境で、どんな天気でも変わりなく咲く露草にこの禅語を思い出しました。

《アフメーション》

私たちのハートには 華やかなビジョンがあります
美しい魂は静かな時に培われ 私たちの両極の面を統合します
誰もが持っている苦悩から 解き放たれるとき
私はここに存在します

移ろいやすく冷めてしまう情熱も、自分の中では時を待って育まれています

何度でもやり直し、新たな気持ちを持ってすれば
静寂の前に強い権力から征服されることはありません
新しく生まれ来る光は
私たちを抱擁する大きな源からやってくるのです

全てを受け入れて その源を信頼しましょう
私たちは常に 愛しあえる喜びに共鳴しています

3. 文献調査

*1.2

【分類】ツユクサ科 ツユクサ属

【学名】*Commelina communis*

Commelina : 17 世紀オランダの植物学者にCommelin という名の学者が3人いました。

そのうち 2 人は有名になり1人は有名になれなかった例を

3枚の花びらのうち2枚がくつきりとし、1枚がわかりにくいのので3人の事に例えリンネが名づけたとされる。

communis : 普通の、通常の

【英名】*Asiatic dayflower*(アジアのその日のうちに萎む花)

【特徴】花色 青

花弁 3枚

雄しべ 2(+4)本

雌しべ 1本

高さ 20~50cm

花期 6~9月

一年草

【分布】日本全土(人里近くの空き地、野原、道端でよく見かけられる)

中国南部 朝鮮半島 インド

【名前の由来】

露草は『露の精のような草』からつけられました。

古名は着き草(ツキクサ)といいます。

花の汁を衣につけていたからです。

藍染めが一般化するまでの青系の染料として使われました。

染料に使う花びらを臼で「つく」に由来し、音だけ残って『月草』

という雅名となりました。

別名「帽子花(ボウシグサ)」「藍花(アイバナ)」「螢草(ホタルグサ)」

「移草(ウツクシグサ)」「青花(アオバナ)」「縹草(ハナダグサ)」等

【花言葉】尊敬

【花の特徴】*12

黄色の花粉の無い4本のダミーの雄しべに引き寄せられて昆虫達がやって来ます。

露草は9割り以上が自家受粉します。

花の最後に雄しべと雌しべを花びらごとゼンマイのように巻いて

包葉に包み込んで自家受粉するしくみは全ての栄養分を自分に戻す為とされています。

実際には花の中がドロドロに溶け栄養分が吸収されて次ぎの花に回されます。

ここに両性的要素が強いことを表現しています。

《写真》

今では退化している左の主軸。時おり主軸から花が咲き包葉から二つの花が咲いている場合があります。

《写真》

【同じ種属】*12.13

《写真》オオボウシバナ:学名 *Commelina communis var. hortensis Makino*

日本全土、中国、朝鮮、ロシア西部に分布し北米の一部で野生化しています。茎は太く草丈は約2倍で花も2~3倍。日本では染料に使われる種です。

《写真》シロバナツユクサ:学名 *Commelina communis L. f. albiflora Makino* 露草の変種

《写真》ムラサキツユクサ:学名 *Tradescantia reflexa Rafin.*

北米の原産種で6月から開花し始めます。露草との違いは蕾もたくさんつけ順々に咲くために一日花であるとわかりにくい。長い期間、花を得ることが出来るので浸透圧や減数分裂の観察に使用されます。染色体数は $2n=12$ $2n=24$ になるとオオムラサキツユクサと呼ばれます。

【染料として】

花の色素は水に溶けやすく、退色しやすいので

友禅染の下絵にも好都合でよく使われたとされています。

この不安定な青の色素についてかつて世界中で論争がおこなわれたそうです。

アントシアニンとフラボン系の物質からなる。(注;アントシアニンはフラボノイドの一種で抗酸化物質として知られます)

金属錯体の一種『コンメリニン』と呼ばれるもので

日本の花色の研究陣が始めて化学成分として結晶化に成功し

ツユクサの学名コンメリナよりつけられました。

露草の花の絞り汁を和紙にしみこませてつくる青花紙。
濡らした筆で青色をしみ出させて布に図柄を描きます。
実際に使用された露草は、花の直系が4cmにもなる園芸変種のオオボウシバナは
現在は滋賀県の草津市で栽培されていますが、今では4件しか残っていません。

【色の効果】*3

一日の日光の色は変化し、様々に移り変わる色合いを見せてくれます。夜明け前の空を覆う濃い青色の光りは、朝を包む淡い青色に変わります。それから午後になると、より黄色がかった色になり、夕方を迎えると赤い色合いになります。

一年の中で、夏は春のさわやかな緑を濃く映し出します。

カラーセラピストのテオ・ギンベルによると、青色は緊張状態に立ち向かう場合に効果を発揮する、喘息、神経症、不眠症に効くといえます。
青寄りの色はカラダを鎮静、弛緩させ血圧を下げます。
そのため不眠症にも効果があります。
ルドルフ・シュタイナー(1861~1925)の色彩設計によれば
落ち着きのない患者に色彩療法として青色を用いるといっています。

私達の心は想念の色によって満たされていて、色に対する反応は私達自身の経験によって培われた、もしくは昔から言い伝えられている心の深部に根ざす連想によって支配されています。”ふさぎ込んでいる(アイ・フィールド・ブルー)”という慣用句は、悲しみと青色を結びつける学習的な連想です。

チャクラでいえば甲状腺のエネルギーの中心にあり、音を通じた創造的表現の中心でコミュニケーションと心理において重要となります。

黄色は、
チャクラでいえば太陽神経叢にあたり神経系統に現れた光りです。人間の認識と自尊心のセンターです。あやふやな状況はこの部分にストレスを生みます。*3

逆三角形のカタチは、エネルギーが下に集中させているので
露草の中心ポイントに有る雄しべの黄色に青の色のエネルギーが向かっている
ことを表現しているようです。

【薬草として】*9.10.11

[薬効]

解熱・利尿・解毒・かぜ・熱性下痢・扁桃腺や喉の痛み・水腫・心臓病
脳血栓予防・眼病・湿疹・かぶれ・虫さされ・腫れ物
(* 中国では葉と茎が解熱、解毒、利尿の薬用にも使われる)

[使用法]

- 露草を開花時期に全草を刈り取り、水洗いして風通しの良いところで日干し乾燥させます。
- 露草を乾燥したものを約5～10gを水 300～400ccの中に入れ弱火で 15～20 分程煎じて 1 日 3 回を限度に服用します
(少し苦みで飲みづらいときは、蜂蜜などで甘みをつけましょう)
- 皮膚には煎じたものを塗布したり、虫さされ等は生葉をすり潰した汁を塗布
- 眼病には露草の花の絞り汁で目を洗浄

- 食用に生の茎や葉を茹でてサラダや和え物に

【他のフラワーエッセンスとの比較】*5.6.7

Bachの「ロックローズ」は和名が半日花です。
露草と同じように半日で萎んでしまいます。

ロックローズの学名 / *Helianthemum mumularium* はギリシャ語のヘリオス(太陽)に由来し、ラテン語では金貨を意味しています。
色は黄色で五芒星の星形、露草とは異なります。ロックローズが太陽の精ならば、露草は月の精でしょう。
露草は闇夜から生まれでる青の光りを背負っています。

他の植物のように一日咲かないのは何故なのでしょう？

どちらも時間的な境界を創ってしまっているようです。それは根底にある恐れが原因かもしれませぬ。

ロックローズの恐れは死や自殺、自然の理を超えた神秘的な力に対する恐れです。
露草の抱えている恐れは誕生することへの恐れかもしれませぬ。輪廻を体験する魂は、この世での苦しい体験を無意識のうちに抱えているからです。

天照大神(アマテラスオオミカミ)・月読命(ツキヨミノミコト)・須佐之男命(スサノウノミコト)は同じ時期に誕生した神様と日本では言い伝えられています。

月読命は夜に水を潤す神様です。

ロックローズが太陽の純粋な命の光りを吸収して照り返すなら、闇夜は神の時間であり露草は月のエネルギーが創り出す露の清らかさを照らしているのでしょう。

ロックローズは英国の南部の小高い牧草地、乾燥した岩場が生育地で、露草は湿地や半日陰などで生育し花や葉、生育場所も異なりますが成長の仕方は地を這うように広がり途中で真っ直ぐ茎が立ち上がるのは同じです。儂く少しずつ拡大をしようとしている露草はどちらも恐れを克服しこの世での真実に辿り着き、自分らしく存在を表現せよと言っているようです。

【万葉花として愛された花】*8

万葉花は古来より日本にあったとされる植物です。

日本では万葉集に詠まれた花を万葉花と呼び、『露草』も例外ではありません。

1300年前、澄みきった日本の自然環境の中に暮らした人々が愛した万葉び。

●鴨頭草に衣色どり摺らめども 移ろふ色といふが苦しさ

(つきくさにころもいろどりすまれども うつろふいろといふがくるしさ)

[歌意]

露草で着物を摺り染めたいけれど 色が変わりやすいと聞くと
気が重いことです

[もう一つの意](男性の浮気心を心配する女心を歌っています)

すでに男の求婚を承諾して一緒になろうと思っていますが
露草のように一度染められたとしても、色があせて
気が変わりやすいのが気が重いところです

【文献調査から得た洞察】

花が咲くのに、名前は『草』とつけられたことに想いを寄せてみると

漢字では草冠に早いと書きます。早い時間に咲く花ですが『草』とつく植物。ここに時間との関係を見出せます。古くからの和漢薬ですので即効性を表しているのかもしれませんが

*8

色の効能の鎮静させ呼吸を楽にする効果、チャクラの甲状腺のエネルギー
観察による『水』との関わりがハーブとしての効能とリンクしています。

花の持つ化学物質は抗酸化物質があり、露草の現代の習慣病に効果を期待したいところ。陰陽五行からみても『水』の感情『恐れ』を表しています。*10

昔の人が詠んだ隠された想いにも『不安』があり、まだおとづれぬ恐れに対して露草はメッセージを送っているように感じました。

儚く消えてしまう露草の青色は日本人の民族衣装の下絵となりました。

その青は私達の記憶の青写真にすでに擦り込まれているかのようです。

『月』のエネルギーはメタレベル 1 のテーマであり、露草は魂が肉体に宿るときにすでに持っている魂の習慣を癒すものです。液体レベル(精子)を始めとする体液の問題にも関係しているかもしれません。

露草の青が向かうエネルギーの流れは黄色へ、花が持つ遠い過去世の記憶、習慣から来る未知なるもの、誕生の恐れによる神経系をも癒すのかもしれませんが。

キーワード:誕生時の恐れ 過去世のカルマ 青写真 情報伝達 第 5.3 チャクラ

《参考文献》

- *1『花のおもしろフィールド図鑑夏』ピッキオ編著 実業之日本社
- *2『花と葉でわかる山野草図鑑』高橋良孝監修 成美堂出版 * 3
- *3『カラーヒーリング & セラピー』テオ・ギンベル著 ガイアブックス
- *4『フラワーエッセンスレパートリー』
パトリシア・カミンスキ／リチャード・キャッツ著
- *5『エドワード・バッチ著作集』エドワード・バッチ著ジュリアン・バーナード編
- *6『Dr.バッチのヒーリングハーブス』ジュリアン&マーティーン バーナード著
- *7『万葉花 植物編』矢富巖夫著 ニッポンリプロ発行
- *8『日本の薬草』指田豊監修 Gakken
- *9『陰陽五行』木場明志監修 淡交社

《ネット情報》

- *10 やなぎ堂薬局 <http://www.yanagidou.co.jp/syouyaku-yakusou-ousekisou.html>
- *11 イー薬局・ドット・コム <http://www.e-yakusou.com/sou/sou269.htm>
- *12 野の植物 100 選 http://research.kahaku.go.jp/botany/wild_p100/index.html
- *13 岡山理科大学 総合情報学部 生物地球システム学科植物生態研究室(波 <http://had0.big.ous.ac.jp/plantsdic/angiospermae/monocotyledoneae/commelinaceae/murasakitsuyukusa/murasakitsuyukusa.htm>)